

三水会会報

北里大学水産学部
同窓会会報
第 6 号

昭和58年9月24日発行

編集者 大野 良樹

発行 北里大学水産学部同窓会

(連絡先)

〒150 東京都渋谷区恵比寿3-39-2 (長屋)

振替口座 第一勧業銀行大手町支店 008-1182388



「満三歳の三水会」

三水会副会長 田村 治

「今年の夏は、三陸へ行く?」……今頃の時期になると、仲間うちでこんな話がよくでます。本紙が発行される頃には、すでに行かれた方もあるかと思いますが、誰でもが夏でも冷

いあの三陸の海が忘れられず、今頃あいつはどこで何をやっているかな。またどこかの下宿で飲みながら騒ぎたいなあ。そんな思を持つ仲間が、今年ですでに一〇〇〇人を超えています。

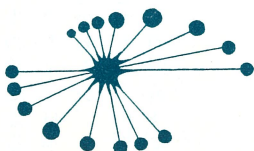
我々、三水会の執行メンバーも、そんな思を持つ仲間たちの交流を、なんとか円滑に行えるようにと、孤軍奮闘、思考錯誤しながらも、本会として満三歳になりました。人間で言う満三歳は、やっと色々な言葉を覚え、囲りにあるもの全てが物珍しく見えてくる歳頃です。と同時に、自分の意志をかなり表現するようになり、個性も発揮されてきます。つまりこれからが一個体としての力を現わしてくる時期だと思います。

この大切な時期に必要なことは、多くの情報をインプットすることです。

今年はいよいよ役員の大改選時期でもあるため、代議員は卒業時での研究室単位で選出してもらいました。もつと一〇〇〇余名の同胞から、多くのインプットリソースを取り入れるべきことと考えているからです。

仕事先あるいは遊びに行ったときに、偶然にも三水会の仲間と出会うたりすると、何かホッとした気持ちになることがあります。大切にしませんか、こんな気持ちを……。

満三歳を過ぎた本会をこれから成長させて行くのは、今この本紙を読んでいるあなた自身の情報であることをご理解下さい。私たち執行メンバーも、微力ながらも成長のSupportmentとなるよう、努力する所存です。



「陸中海岸の地名」

下村敏正

10年前に、東北地方の沿岸部全域にわたって、海図と五万分の一地図から、島礁・岬角・沿岸部落の地名をリストアップしたことがある。今この中から、大槌・気仙沼の地帯について地名数を集計すると(表1)、唐桑・岩井崎の気仙沼地区が過半を占め、総数でも58%強となる。この地区の海岸線の短い事を考慮に入ると、この重みは更に大きくなる。

次に地名を、“さかな”など4つのカテゴリーに分けて列挙すると、表2となる。下欄に頻度数を示すと、ここでもやはり、南の気仙沼地区が、42地名中62%の高率を示す。表2から、航海安全や大漁祈願の対象である神、あるいは海からも陸からも目につき易く、魚群のありかさへ教えてくれる鳥、この2つの地名が69%と高頻度なのは当然である

う。“さかな以外の動物”でトト鳥というのは、いかにも北国らしい地名である。
大船渡湾にある珊瑚島は、珊瑚島ではない。この湾の冬の低水温は、珊瑚の生育を許さないはずである。従ってこれは、大正末期渋谷嘉助氏から赤崎・大船渡両村に共同公園として寄付された時の趣意書及び現況から見て、“景勝”の島という意であろう。

上山地越え→遠野→奥羽山脈(国見峠)越え→秋田仙北ルートによる陸中海産物の、馬の背、牛の背による流通も盛んであったのに……。日本海側には、鮭川や鮭村があるが、これとは比較になぬほどサケが沢山獲れていた陸中には、サケの地名はない。
海藻の地名もない。
これら海図上の地名はすべて、近年養殖業が始まる前の物である。地形を頭に描きながら、これらの地名に相対する時、現在の浦々の生活に過去がオーバーラップし、フエードインし、さらにこれからの変貌は？の想いが広がってゆく。

【表1】

	島 礁	岬 角	沿岸部落	総 数
小 計	104	74	225	403
内、気仙沼	60	33	141	235

表2 (○印は部落名)

地	さ かな	海生動物	鳥	神
大槌・陸前高田	鱈 島 鰹 島 。蛸の浦	ト ト 島 珊 瑚 島	島 鷲 水 鶏 鳥 糞 鷺 の 巣 。鵜 の 住 島 頭	弁財天 島 。天 崎 。天 岬 。明 神 。神 道 。神 坂
気仙沼	ホ ツ キ 島 。貝 島 。魚 町 。日 向 貝 。貝 浜 。小 鯖 立	と 海 と 馬 島	島 鷲 鳥 雀 鳥 鷲 。鵜 の 巣 。鷺 の 巣 。鳥 の 巣 。鴨 木 。鶴 ケ 浦	恵比寿 崎 。恵比寿 鼻 。明 神 崎 。大明神 崎 。神 明 崎 。山 王 鼻 。弁 天 町 。神 倉 止
計 気仙	10 7	3 1	15 9	14 9

人の往来がより盛んであった気仙沼地区に、地名の多い事は当然としても、以北地域との差の大きいのは予想外であった。
江戸時代に俵物・諸色として長崎貿易に、幕府直轄で陸中海岸から盛んに出荷されていたイリコ・干シアワビ・コンブなど、国としても藩としても重要な物産の地名が全くないのはどうしたことだろう。大槌↓北



水族病理学教室の近況

厚 田 静 男



卒業生の皆様お元気で御活躍の事と存じます。早いもので水族病理学教室も十一年目を迎え、当教室だけでも百五十名以上の卒業生が巣立って行きました。

本年度の水族病理学のメンバーは四年生が十四名（内一名出向）

と研究生一名そして職員が三名の計十八名です。ここで職員の近況をお知らせしておきます。まずは小林教授、昨年六月に中国の四川省水産学会の訪日

団を迎え、福島県只見実習所において鮭鱒類の養殖についての講義をされ、今年三月には淡水魚養殖に関する技術交流のため中華人民共和国へ海外出張されました。また後期には獣医学部に魚病学の講義と、御多忙な毎日ですが、ます／＼お元気で（しかし学年達は少しお酒が弱くなったのでは等と言っています……）。渡辺助教は昭和五十七年四月より、日本大学農獣医学部魚病教室に転任されました。長い間当教室で研究や教育面において御助力いただきました事は皆様も御存じのことと思います。当教室をはなれましても同じ分野で今後も御活躍なされていますので恩師としてお訪ねになつてはいかがですか。次に当教室の紅一点菊地嬢はますます元気で、バレーボール、バトミントン、登山等々と頑張っており、又電子顕微鏡のオペレーターとしても毎日腕を磨いております。そして筆者（厚田）は、このごろ頭の毛がうすくなったとか、

お腹が出てきたとか、いろいろな流言が飛んでおりますが、事実無根だと本人は思つて頑張っております。

研究室の設備の方も創設期からある第一校舎四階の教授室、大研究室、小研究室のみならず第三校舎二階には病理細菌用無菌室および研究室、同校舎一階にはウィルス用無菌室と感染実験室と充実し、今後の研究活動にも対応しようと考えております。現在当教室では、養殖水産動物の疾病の予防を目的として、小林教授を中心に、病理細菌学的研究、ウィルス学的研究、病理組織学的研究を行ない各年毎にデーターを集積していますが、今年は例年より四年次生のメンバーが少なく各自の負担が大きいのですが、各々がテーマ毎に頑張っております。

さて、当教室の年中行事を紹介したいと思います。まず四月は新四年次生の最初のコンパ、五月はお花見山菜コンパ、夏休みは獣医畜産学部の病理学教室との親睦会、十月は紅葉コンパ、十二月には忘年会を兼ねての温泉ツアー、そして、その年度最後の行事は、二月のスキーツアーです。とくにこのスキーツアーには何名かの卒業生も参加してくれることもあり、大学生活の良い思い出

なっているようです。このように書きますと始終お酒ばかり飲んでいらっしゃるようですが、御心配なく当教室には前記の渡辺助教の残していかれた名言が有ります。酒を飲んだ次の日ぐらひは朝早く来て仕事をしろ！！と云う訳で、毎日学生は定刻にしか研究室に来ていませんので……？。

当教室の気風ですが、創立期のころから見て大きな変化は無いことは年中行事等でおわかりになったと思いますが、学生達の気質が若干かわつてきたように思えます。

卒業生の諸兄が三陸にこられた際にはぜひ当研究室に顔を出してください。楽しみにしています。では皆様の今後の御活躍をお祈りいたします。

追 渡辺翼先生の現住所
勤務先

〒252 神奈川県藤沢市亀井野

一八六六

Tel○四六六（八）六二四一番

日本大学農獣医学部獣医学科
魚病医学研究室

自宅

〒171 東京都豊島区西池袋

四丁目十三一十五

Tel○三（九六）一〇九四番

「昭和五十七年度三水会総会」 報告

「昭和五十七年度三水会総会」が去る五月八日(日)北里本館大会議室において開催され、次の事項について審議決定されました。

一、昭和五十七年度三水会事業報告

(一)、会報発行

昭和五十八年三月に会報を発行した。

(二)、就職ガイダンスの開催

昭和五十七年七月に水産学部在学生を対象に就職ガイダンスを三陸校舎にて行った。本年度は薬品、水産加工、流通関係の4名に協力願った。

(三)、学友会助成

本年度は請求がなかったため、助成金の交付は行わなかった。同期会等の助成

本年度は1つのクラブOB会に対し助成金を交付した。

(五)、講演会の開催

五十七年五月に松浦学長、井田助教を講師にお願いした講演会を開催した。

(六)、水産学部十周年記念式典関係行事の開催

水産学部十周年記念式典にあわせたバス旅行を五十七年八月に実施し、会員の親睦の場とした。

(七)、卒業生の現況の把握

調査カードを全卒業生に送付し、現況の把握に努めた。

二、五十七年度決算案の承認

田中常任理事より五十七年度決算案について説明がなされ、佐々木監事より監査結果が報告され、承認された。

三、五十八年度事業計画の承認

説明の後、以下の計画について承認された。

(一)、会報の発行

同窓生の動向、学部の現況、各種の情報等を内容とした。会報を年二回発行する。

(二)、同窓会名簿の配布

全学同窓会名簿を第三、四期生に配布する。

(三)、就職ガイダンスの開催

各分野の卒業生による就職ガイダンスを水産学部生を対象

(四)、学友会助成

に三陸校舎にて行う。クラブの活動費および大学祭、体育祭費用の一部を助成する。

(五)、同期会等の助成

同期会等卒業生の集会の費用の一部を助成する。

(六)、講演会の開催

学術的な発表、大学の現況等について水産学部の先生方に講演していただく会を白金校舎にて行う。

(七)、県別会員名簿の配布

本会々員の県別名簿を全会員に配布する。

(八)、会員の現況の把握

調査カードを全会員に送付し、現況の把握に努めるとともに、これらを資料に卒業生の現況台帳を作成する。

(九)、親睦会の開催

会員を対象とした親睦会を本年度は東京近郊で行う。

五、五十八年度予算案について説明の後、左表のとおり承認された。

六、代議員の選任について

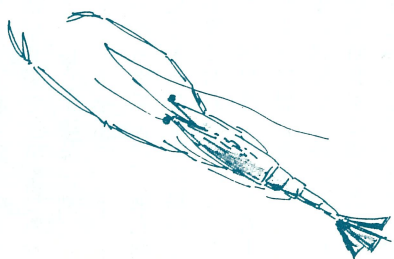
規約十七条にもとづき、次のとおり代議員が選任された。

規約十七条にもとづき、次のとおり代議員が選任された。

規約十七条にもとづき、次のとおり代議員が選任された。

なお、理事の選任は書面審議によつて行われ、後掲のとおり決定した。

閉会后、昼食をとり引き続き同大会議室において「先生を囲む会」を開催いたしました。今回は太田先生より「新製品開発について」、下村先生より16mm映画による三陸町の想い出等についてのご講演をいただきました。このあと、同会館食堂において懇親会が開かれ盛況でした。



昭和58年度三水会予算

昭和57年度三水会決算

支 出 の 部		収 入 の 部		支 出 の 部			収 入 の 部		
科 目	金額	科 目	金額	科 目	実績	予算	科 目	実績	予算
1. 事業費	1,800,000	1. 1~7期生終身会費	250,000	1. 事業費	858,210	1,310,000	1. 1~7期生終身会費	25,000	500,000
(1)会報発行費	600,000	2. 部会助成金	1,900,000	(1)会報発行費	211,380	500,000	2. 部会助成金	1,340,000	1,340,000
(2)同志会名簿配布費	100,000	3. 前年度繰越金	748,694	(2)同志会名簿配布費	0	60,000	3. 前年度繰越金	1,558,807	1,558,807
(3)就職ガイダンス費	150,000			(3)就職ガイダンス費	106,400	150,000	4. 受入利息	68,150	60,000
(4)学友会助成費	300,000			(4)学友会助成費	0	300,000			
(5)同期会等助成費	100,000			(5)同期会等助成費	10,000	100,000			
(6)講 演 会 費	50,000			(6)加田年記念式典関係費	360,430	100,000			
(7)黒川会名簿配布費	200,000			(7)講 演 会 費	30,000	50,000			
(8)会員の現況把握費	200,000			(8)卒業生の現況調査費	140,000	50,000			
(9)親睦会費用	100,000			2. 運営費	385,053	410,000			
2. 運営費	650,000			(1)印刷・通信費	49,770	50,000			
(1)印刷・通信費	50,000			(2)会 議 費	86,233	150,000			
(2)会 議 費	150,000			(3)総 会 費	195,620	200,000			
(3)総 会 費	200,000			(4)事 務 費	4,040	10,000			
(4)事 務 費	150,000			(5)雑 費	49,390				
(5)慶 弔 費	50,000			3. 事業積立金	1,000,000	1,000,000			
(6)外 渉 費	50,000			4. 次年度繰越金	748,694	738,807			
(7)予 備 費	448,694			合 計	2,991,957	3,458,807		2,991,957	3,458,807
合 計	2,898,694		2,898,694						

増殖(三〇名)	大野 良樹(一期)	伴 圭司(二期)	田代 茂年(二期)	田村 治(二期)	鈴木 英之(三期)	田中 信介(三期)	石井 美華(四期)	大沢 義憲(四期)	高木 雅宏(四期)	島田 久美子(五期)	長島 宏一(五期)	村上 千鶴子(五期)	佐藤 伊豆男(六期)	桃井 隆(六期)
新三水会代議員名簿	其阿弥喜嗣(二期)	長屋 信博(二期)	森下 寛(二期)	田中 和良(二期)	横堀 昌道(二期)	関口 敬二(三期)	長谷川 一敏(三期)	石黒 信良(四期)	玉井 正史(四期)	奥村 誠一(五期)	神取 政司(五期)	中村 守孝(五期)	江口 孝志(六期)	林崎 孝志(七期)

財産目録(57年度末)

種 類	金 額	摘 要	口 座 番 号
普通預金	748,694	58年度繰越金	第一勧業銀行 008-1182388
現 金	0	—	—
定期預金	1,000,000	事業積立金	第一勧業銀行 008-6122243-101
計	1,748,694		

監事	副会長	常任理事	田村治
岡常正	其阿弥喜嗣	大野良樹	長屋信博
佐々木英生	田中和良	中野良樹	
坂本雅哉	横堀昌道	田中和良	
伊藤知尋	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	
	坂本雅哉	田中和良	
	長谷川一敏	田中和良	

食品(二八名)	岡 常正(一期)	佐々木 英生(二期)	足立 邦彦(二期)	長阪 其記(二期)	安達 泰史(三期)	伊藤 知尋(四期)	能勢 尚一(四期)	小川 治男(五期)	高橋 明義(五期)	名雲 英人(五期)	太田 浩司(六期)	坂本 雅哉(六期)	児玉 雄司(七期)	清 康一(七期)
	石川 義行(一期)	宮川 忠彦(二期)	城 真市(二期)	中村 年彦(二期)	佐藤 敏行(三期)	瀧澤 淳(四期)	谷山 二朗(四期)	小田 徹(五期)	武部 道和(五期)	磯部 義文(六期)	長尾 禎彦(六期)	小林 昇(七期)	山岡 寛(七期)	樹 寛(八期)

「第十回を迎えた体育祭」

体育祭実行委員長 松井 完二



体育祭も回を重ねて十回目となり、おそらく諸先輩方々の脳裡には、この歴史の一コマ一コマが克明に刻み込まれて生涯忘れ難い思い出となつていらつしやるにちがいありません。体育祭は、三陸の初春の陽ざしの下で、五月二十八・二十九日の両日にわたつて開催されました。

降り続き駆伝が危ぶまりましたが、みんなの思いが勝つたのか、すばらしい体育祭日和となり、体育会、文化会の各クラブを始めとし、有志よりなる二十六団体が参加し、大学構内より盛線甫嶺駅間の往復約二十四・五キロに挑みました。今年は記録的にも伯仲していて、日頃の練習で鍛えた足に物を言わせて、ラクビーフットボールチームが抜け出し優勝しました。その後、興奮のさめやらぬ中、つなひきが行なわれ数多くの喝采を浴びました。

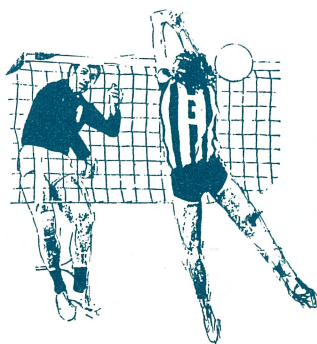
第二日目は、樽みこしが、威勢のよい掛け声と共に崎浜を練り歩き、本祭気分は盛り上がりを見せ、午前十時より、バレーボール、ソフトボール、テニスなどの各種球技が開始されました。

時、同じくして、空手道同好会、柔道同好会、少林寺拳法部、剣道部の演武会、及び軽音楽コンサートが催されました。

そもそも体育祭とは、日頃運動を好む人も好まぬ人も共に力の限り躍

動し、心身を鍛えるばかりでなく、友情の輪を育て、何事においても無我夢中で打ちこんでこそ意義があると思います。中には体育祭を休みだと考えている人がいるみたいですが、もつと自分の立場を理解し、小さな所に止どまらず、表に出て発散してもらいたいと感じると同時に何の対策もできなかった自分が情けなく思つしだいです。

最後にこの場をおかりして、実行委員の諸君とそれを理解してくださった教職員の皆様、そしてこれらを支えてくださったOBの皆様、三水会の皆様、地元の皆様、その他の方々に深く感謝し、御礼を申し上げます。



昭和58年度水産学部北里会団体一覧

◎体 育 会

委員 長 石 川 聡 聡
副委員 長 長 澤 昭 良

団体名	部 長 名	主 将 名	2年3年4年計 男女男男女女								団体名	部 長 名	主 将 名	2年3年4年計 男女男男女女							
部(8)										サークル(4)											
潜 水	助教授	井 田 齊	並木敏之	9	1	7	0	5	0	22	自 動 車	教 授	藤野和男	嶋野秀幸	6	0	5	0	4	2	17
ヨ ッ ト	教 授	野村節三	石川克也	5	0	0	0	7	0	12	弓 道	講 師	大場義継	井上裕文	2	0	2	0			4
躰 道	教 授	橘高二郎	小川 忍	3	0	4	0	5	0	12	サーフィン	助教授	児玉正昭	大友 潤	3	0	6	0	1	0	10
アメリカン・フットボール	助教授	佐 藤 実	金子哲士	6	1	3	0	8	1	19	山 岳	助 手	斉藤博司	高野和典	1	0	4	0	2	0	7
卓 球	助 手	荒井克俊	桐山和夫	3	0	2	0	2	2	9	◎文 化 会 委 員 長 齊 木 正 一 副委員長 山 本 隆 広										
少林寺拳法	講 師	村本光二	平川智章	7	0	4	0	7	0	18											
野 球	講 師	緒方武比古	半田昌宏	4	1	4	0	2	0	11											
硬式庭球	教 授	神谷久男	真鍋雅彦	3	0	3	0	3	0	9	団体名	部 長 名	主 将 名	2年3年4年計 男女男男女女							
同好会(7)										部(5)											
ラグビーフットボール	助 手	荒井克俊	藤 田 博	6	0	3	0	3	0	12	軽 音 楽	助教授	児玉正昭	國藤公利	8	0	5	1	3	3	20
スケート	助教授	児玉正昭	芳 賀 徹	2	0	2	0	2	0	6	写 真	講 師	厚田静男	伊藤晃男	9	0	5	0	5	0	19
空 手 道	講 師	大場義継	大橋敏宏	3	0	1	0	2	0	6	人形劇研究	助教授	佐 藤 実	秋山裕子	5	0	2	1	2	0	10
陸上競技	教 授	川内浩司	手川憲一	2	0	2	0	2	0	6	路 の 会	助 手	斉藤博司	天谷 稔	5	0	4	0	0	2	11
ワンダーフォーゲル	講 師	日下兵爾	岡田圭司	0	0	2	0	3	0	5	生 物	助教授	井 田 齊	浜田哲暁	9	0	9	0	10	1	29
サッカー	講 師	早川康博	大谷 隆	5	0	8	0	6	0	19	同好会(3)										
柔 道	教 授	太田静行	黒澤 明	3	0	2	0	3	0	8	美 術	講 師	早川康博	橋本憲輝	6	0	3	0	4	1	14
愛好会(6)										北 釣 会	教 授	佐藤美和	金子源治	7	0	3	0	3	0	13	
剣 道	講 師	大場義継	高山晃一	1	2	1	0	1	0	5	E・S・S	教 授	藤野和男	桐山和夫	0	0	2	0	0	1	3
バスケットボール	講 師	長林俊彦	長谷川泰久	3	0	2	0	0	1	6	愛好会(3)・サークル(1)										
アーチェリー	助教授	鈴木敬二	阿部邦勝	3	0	1	0	0	0	4	演 劇	教 授	神谷久男	福田純久	0	0	3	0	0	0	3
ス キ ー	助教授	鈴木敬二	中野清隆	4	0	2	0	2	0	8	天文研究会	助 手	加戸隆介	野村英昭	5	0	6	0	0	0	11
ボディビル	教 授	太田静行	松井完二	5	2	8	0	4	0	19	水産生物食品化学研究会	教 授	神谷久男	山本延生己	3	3	5	0	0	0	11
排 球	教 授	小林正典	山村佳樹	1	0	4	0	3	0	8	麻雀研究会	助教授	山森邦夫	高塚 聡	0	0	6	0	0	0	6

「いも煮会」のご案内

秋です。食欲の秋です。澄んだ流れと空気の秋川でいも煮を行います。

おいしいトン汁、鉄板焼、ビールは飲み放題、しかも無料。おとうさん、おかあさんから赤ちゃんまで、ご家族づれでお越し下さい。

三水会のみんな、秋川まで来てくれるかな！

と き 10月9日（日曜日）

11時、現地集合

場 所 秋川橋河川公園バーベキューランド

Tel. 0425-96-5122

（当日は公園入口にて案内します）

なお雨の場合は中止にします。

（連絡先 03-449-9256（長屋）
0429-95-4687（田村））



編集後記

めつきり秋らしくなり朝夕肌寒く感じられるこの頃です。皆様も秋の夜長に虫の音をききながら過ぎし夏のことなど想いがかべていられるのではないのでしょうか。

予言された日も過ぎて、富士山も爆発せず大地震もおこらず、東京近郊に住んでおられる方はほっとしていられることと想います。

今年三月に一期生からお世話になった下村先生が退任されました。長い間ご苦さまでした。もう大学にかがってもあの白衣等の下村先生にお会いできないのかと思うとさびしく感じられます。卒業後三陸にうかがい、変わらぬ自然と先生方や地元の方々の暖かさに触れるとふっと、学生時代に戻ったような気持ちになる方が多いのではないのでしょうか。でも、時は確実に過ぎ、私達の想い出は段々と本当に想い出になって行くのだなあとも秋の夜長に少しさびしい気持ちになっています。